







新小岩駅周辺 まちづくりプラン

まちに広がる
みんなのWA!
新小岩



令和5年4月
葛 飾 区

新小岩駅周辺のまちって

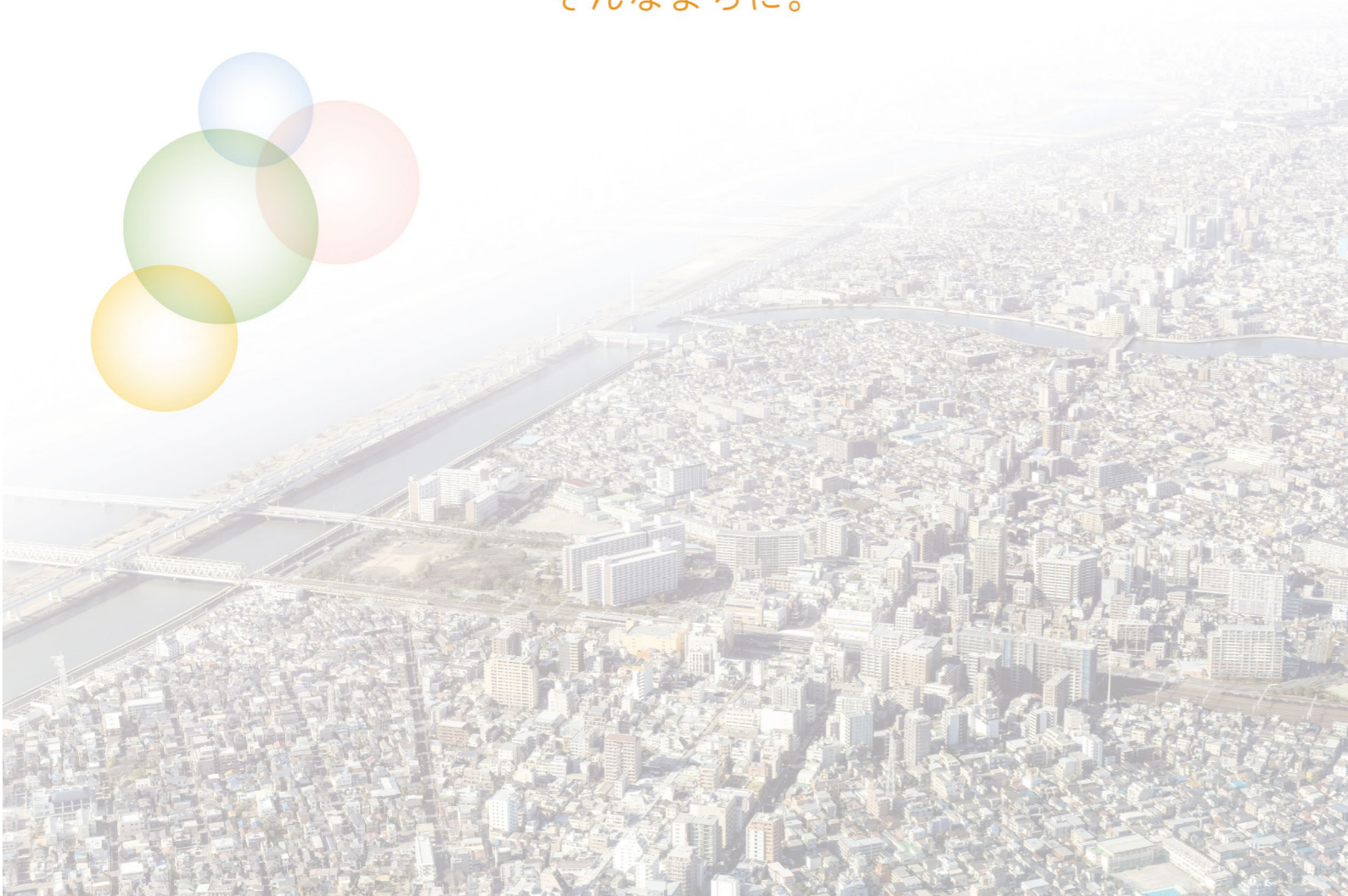
どんなまち？

こんなに自慢できる場所があるよ

こんなに素敵な人たちがいるよ

もっと、もっと、

そんなまちに。



Contents

- 1 まちづくりプランとは P01
- 2 まちの成り立ちと現在の姿 P03
- 3 まちの現状と課題 P07
- 4 まちの将来像と方針 P09
- 5 まちづくりの取組 P11
- 6 将来像の実現に向けて P21

1 まちづくりプランとは

目的

新小岩駅は区内で最も利用者数が多く、また、駅周辺地域は子供から大人まで多様な世代が住む、非常に活気のあるまちとなっています。これまでも区民や事業者、行政等と一緒にまちづくりを進めてきましたが、現在も駅周辺の基盤整備やまちづくりが進んでおり、まちが変化し続けていることから、新小岩駅周辺の将来的なまちづくりの方向性を示す指針として、以下の3つの考えを基に概ね20年後の実現を目指す「新小岩駅周辺まちづくりプラン」を作成しました。

①まちの経緯・取組を踏まえ、新たな時代にも対応する

昨今、激甚化する災害や「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性ある社会を目指す「SDGs（持続可能な開発目標）」、アフターコロナ時代、DX[※]等への対応が求められていることから、本プランはこれまでの新小岩駅周辺のまちづくりを踏まえながら、このような新たな時代に対応するものとします。

②目指すべき“まちの将来像”に向け、具体的な方向性を示す

持続可能なまちとして目指すべき「まちの将来像」の実現に向け、空間づくりとなるハードの取組と、空間をより良く使うためのルールや体制等をつくるソフトの取組、両輪でのまちづくりの方向性を示すものとします。

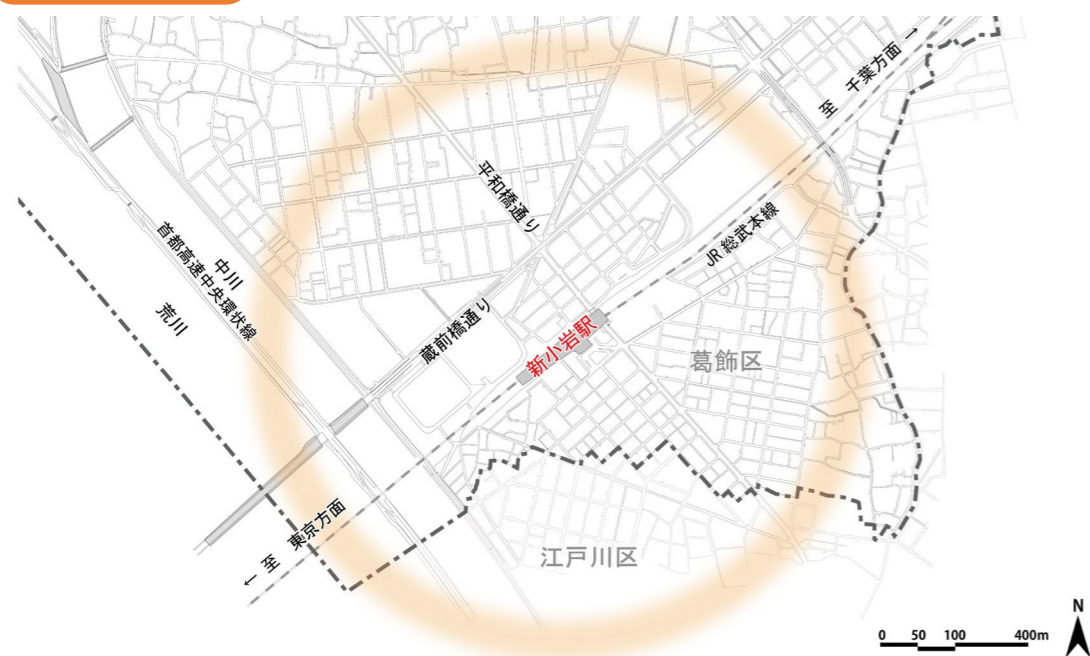
③区民・事業者・行政等が、それぞれの“力”を生かして、地域の価値を向上する

本プランは、区民・事業者・行政等の関係者が共有し、これまでの連携体制を強化したり、新たな体制を構築しながら、協働によるにぎわい創出や地域の魅力向上など、更なる地域の価値向上に役立てるものとします。

※DX (digital transformation) : まちづくりにおけるDXとは、基盤となるデータ整備やデジタル技術の活用を進め、まちづくりの在り方を変革することで都市における新たな価値創出又は課題解決を図ることを指します。

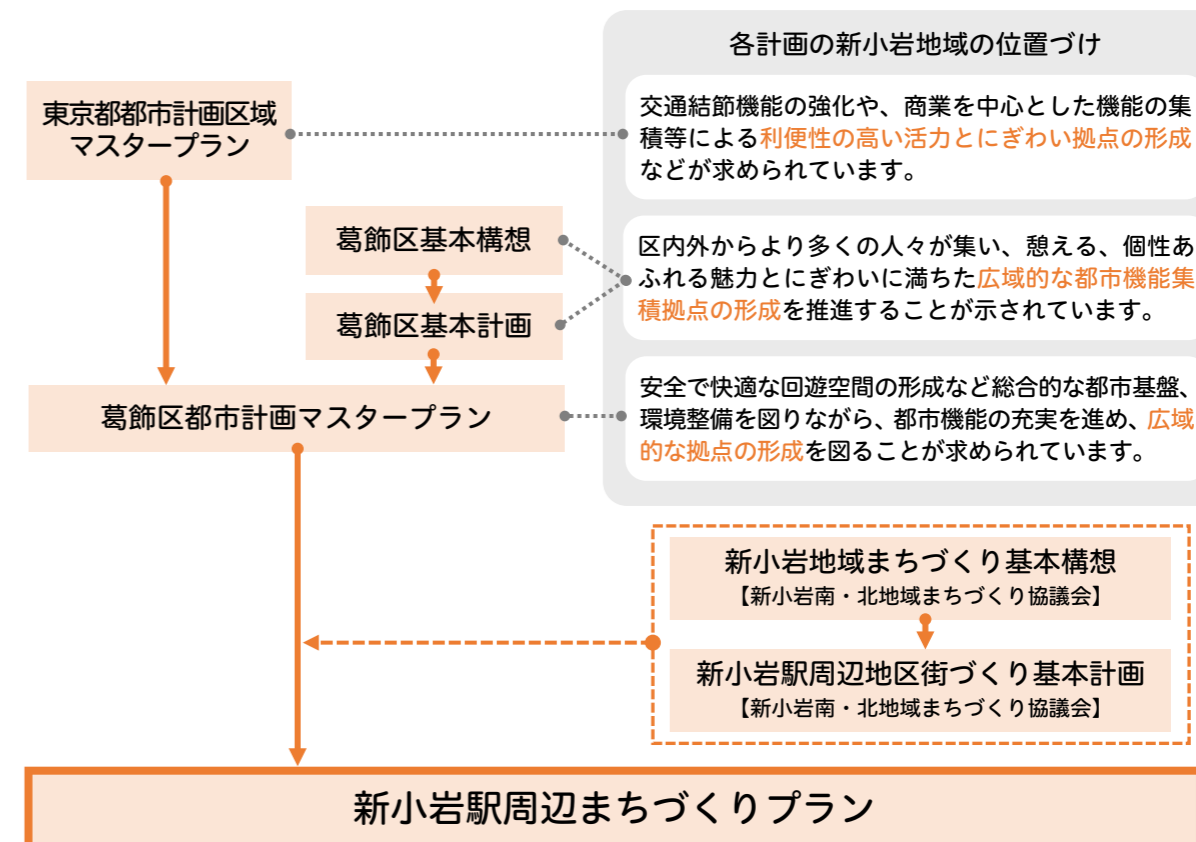
対象地域

新小岩駅周辺を本プランの対象地域とします。



位置づけ

本プランは、関連する上位計画や新小岩南・北地域まちづくり協議会で作成した地元計画等を踏まえ、**新小岩駅周辺の中長期的な取組を示す行政計画**として位置づけます。計画期間は、**概ね20年間**とし、各取組について地域の状況等を踏まえながら段階的に進めていくとともに、今後の社会情勢の変化や上位計画等の変更等により、適宜見直しを行うこととします。



「新小岩地域まちづくり基本構想」、「新小岩駅周辺地区街づくり基本計画」について

新小岩南・北地域まちづくり協議会では、平成23年7月に策定した「新小岩地域まちづくり基本構想」を実現するため、概ね10年間の街づくりの目標となる「新小岩駅周辺地区街づくり基本計画」を平成26年11月に策定しました。なお、同計画の策定に先立ち、駅周辺の5地区では「地区別街づくり計画」を平成26年2月に策定しています。

▶「新小岩駅周辺地区街づくり基本計画」での主な方針

【土地利用計画】

- ・用途地域、「新小岩地域まちづくり基本構想」と整合する土地利用
- ・各地区の拠点形成に資する土地利用

【交通・道路計画】

- ・回遊性の向上
- ・各地区における交通拠点の形成と機能分担・ネットワーク強化による利便性・快適性の向上
- ・快適性・安全性に配慮した交通計画

【景観・環境計画】

- ・駅前拠点の魅力ある景観形成
- ・平和橋通りなど、骨格軸の景観形成
- ・回遊軸の魅力ある景観形成
- ・みどりのネットワーク化

【防災計画】

- ・防災拠点へのアクセス確保
- ・地震・火災・洪水・台風など、多様な災害に対応しうる安全な市街地形成
- ・防災機能を備えた駅前広場形成



2 まちの成り立ちと現在の姿

成り立ち

新小岩駅周辺のまちは、昭和3年に新小岩駅が開業すると、昭和13年には那須アルミニウム器具製造所、理研鋼材株式会社平井工場が建設されるなど、まちの姿は大きく変わっていきました。さらにその後、工場跡地が松上小学校や新小岩公園、都営西新小岩一丁目アパートになるなど、多くの人々が暮らす場所となりました。また、この間には新小岩ルミエール商店街も誕生し、現在では新旧140~150の店舗が並び、下町の情緒とにぎわいのある商店街となっています。

なお、新小岩駅は小岩駅にちなんでつけられた名前ですが、昭和40年には、それまであったいくつかのまちを再編して、地名を「新小岩」としました。

年号	新小岩駅周辺のまちの主な出来事	主な出来事
昭和3年7月	新小岩駅開業 	・葛飾区の誕生(昭和7年) ・第二次世界大戦(昭和14年) ・終戦(昭和20年)
昭和19年2月	新小岩駅北口開業	
昭和31年4月 12月	松上小学校開校 新小岩駅南口駅前広場完成	
昭和32年	新小岩ルミエール商店街誕生	
昭和34年	新小岩ルミエール商店街アーケード設置(区内初)	
昭和37年5月	平和橋通り立体交差開通 	・東京タワー完成(昭和33年)
昭和42年8月	平井大橋開通	・東京オリンピック開催(昭和39年)
昭和47年7月	総武快速線の運行開始 	・国鉄が分割民営化し、JRが誕生(昭和62年)
昭和60年3月	新小岩公園開園	
昭和61年9月	新小岩北地域まちづくり協議会設立	
昭和63年2月	新小岩南地域まちづくり協議会設立	
平成12年7月	葛飾あらかわ水辺公園開園 	・東日本大震災(平成23年)
平成19年10月 平成23年3月	新小岩陸橋完成(翼橋立体化) 新小岩駅東北広場とスカイデッキたつみ完成	・東京スカイツリー開業(平成24年)
平成23年7月	新小岩地域まちづくり基本構想策定	
平成26年2月 平成26年11月	地区別街づくり計画策定 新小岩駅周辺地区街づくり基本計画策定	
平成30年6月	新小岩駅南北自由通路暫定開通 	・新型コロナウイルス感染症の流行(令和2年)
令和2年9月 12月	新小岩駅北口駅前広場完成 新小岩駅南口駅前広場(島地内)改修	

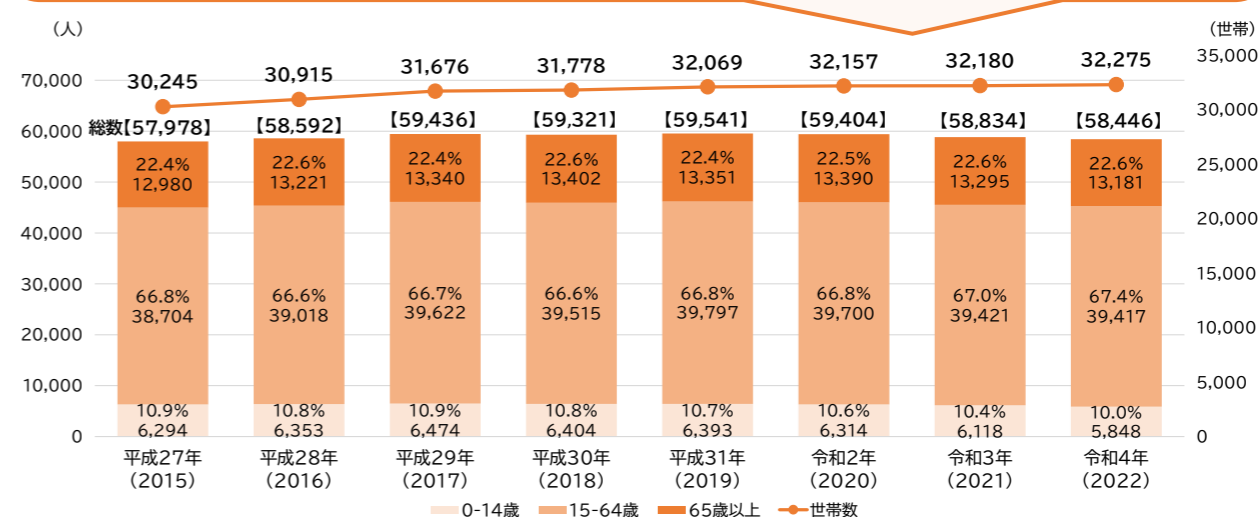
データで見る現在の姿

*人口・世帯数、商品売上額は、新小岩1丁目~4丁目、西新小岩1丁目~5丁目、東新小岩1丁目~8丁目の合計値。

新小岩駅周辺の人口・世帯数



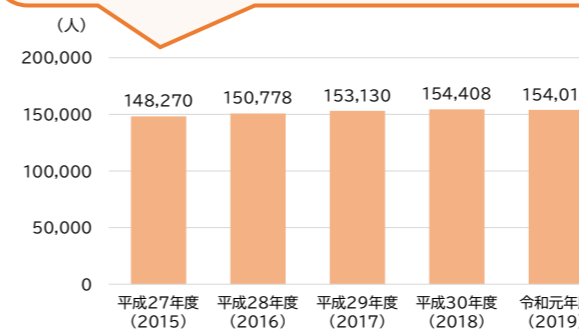
- 人口は、平成31年まで緩やかに増加し、その後は微減に転じているが、令和4年では58,446人と、平成27年と比べると**468人増加**しています。
- 令和4年の15-64歳人口割合は、全国の59.5%※と比べると**67.4%と多い**のが特徴。
- 世帯数は、年々増加しており、令和4年では32,275世帯と、平成27年と比べると**2,030世帯増加**しています。



資料：住民基本台帳(各年4月1日)より作成
 ※全国の15-64歳人口割合は、住民基本台帳(令和4年1月1日)[総務省]より
 ※人口割合は、小数点第二位以下を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%とならない場合があります。

新小岩駅の一日常乗降人員

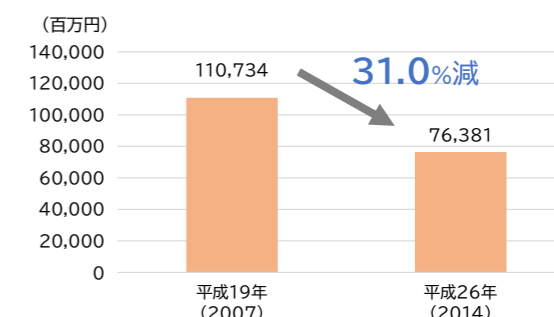
- 一日の平均乗降人員は、約**15万人**となっています。
- 平成27年度から令和元年度で約**6千人増加**しています。



資料：東日本旅客鉄道ホームページより、一日平均乗車人員を2倍した数値で作成
 ※新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった、令和2~3年度のデータは除いています。

新小岩駅周辺の商品売上額

- 商品売上額は、平成19年から平成26年で**31.0%減少**しています。



資料：商業統計調査報告[統計局]より作成

図で見る現在のまちの姿

～これまでに整備した主な都市基盤や公共施設～

① 葛飾あらかわ水辺公園
 河川本来の姿を復元するために、湿地等を整備した公園です。
 (平成 12 年整備完了)

② 新小岩公園
 芝生広場・スポーツ広場・水遊び場のある約 4 万 m² を超える緑豊かな公園です。
 (昭和 60 年整備完了)

③ にこわ新小岩
 子ども未来プラザ・保健センター・活動室等の機能を集約した複合施設です。
 (令和 4 年オープン)

④ イムス東京葛飾総合病院
 超高齢社会の医療需要の増加に対応するため、旧松上小学校跡地を活用した病院誘致を進め、平成 29 年に開設しました。
 (平成 29 年 オープン)

⑤ 新小岩駅南北自由通路
 鉄道により分断されていた、南北方向の移動の改善や駅南北地域の一体的な活性化を図るために整備が進められています。
 (令和 5 年整備完了)

⑥ 新小岩駅北口・南口駅前広場
 南北自由通路の開通に合わせて、駅前広場のバリアフリー改修工事を行いました。
 (令和 2 年 整備完了)

⑦ 平和橋通り
 広域的な南北の移動ができる主要幹線道路。安心安全に移動できるまちを目指すため、平成 25 年に駅前歩道橋を撤去し、横断歩道を設置しました。
 (平成 25 年 整備完了)

⑧ 新小岩駅東北広場
 南口駅前広場から発着していたバス路線の一部を移転したほか、タクシー乗り場を整備しました。
 (平成 23 年 整備完了)

⑨ 新小岩東南自転車駐車場
 民間大規模開発に合わせて整備された新小岩二丁目小松菜児童遊園内にある自転車駐車場です。
 (令和 4 年オープン)

⑩ 蔵前橋通り
 広域的な東西の移動ができる主要幹線道路。平成 19 年には、たつみ橋交差点の交通渋滞の解消のため、新小岩陸橋が整備されました。
 (平成 19 年 整備完了)

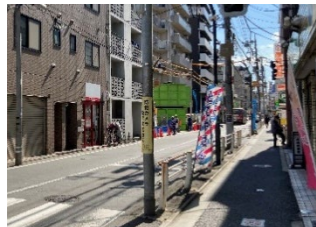
⑪ 西井堀せせらぎパーク
 住宅街にある長さ約 500m の公園。近隣住民の散歩コースや憩いの場となっています。
 (平成 6 年整備完了)

3 まちの現状と課題

現状



駅南口の様子



片側歩道の末広通り



140~150の店舗が並ぶ
新小岩ルミエール商店街



駅周辺に立ち並ぶ
中高層マンション



地域内の細街路



多くの人でにぎわう祭りの様子
(駅北口)

■JR 総武本線新小岩駅

- ・快速が停車し、東京駅まで約13分と利便性が高く、駅利用者数は年々増加傾向。※コロナ禍を除く。
- ・令和5年3月には新小岩駅の南北自由通路が完成し、これまでよりも利便性・回遊性が向上。
- ・交通結節点としてバス路線も充実。
- ・広場等のバリアフリー化、駅周辺道路の電線類地中化などの基盤整備が進められ、駅周辺の歩行環境の改善が進んでいる。

■道路環境

- ・主要幹線道路である平和橋通りや蔵前橋通りが通っており、さらに首都高速中央環状線「平井大橋出入口(IC)」が近隣にあるため、広域的な移動に便利。
- ・駅周辺には歩道空間が狭い通りや細街路等、歩行上危険な箇所がある。
- ・新小岩駅前の自転車乗入れ台数は区内で最も多く、令和3年度時点で約7千台となっている。また、自転車駐車が多数立地しているものの、路上への放置自転車も多い。
- ・荷捌車や一般車の一時停車場が無い場合、地区内に路上駐車がが多く、歩行者や自転車の交通の妨げとなっている箇所がある。
- ・新小岩公園と新小岩駅を結ぶ歩行者動線が弱い。

■商業

- ・商店街は活気があり、にぎわいが見られる。
- ・専門店が少なくなってきたり、店舗の種類に偏りが出てきている。

■住環境

- ・ワンルームやファミリータイプのマンション建設が各所で進められており、また、再開発も計画されているため、今後は若い世代の増加が見込まれる。

■都市環境・景観

- ・南口駅前にはペンシルビルが立ち並び、街並みとしての統一感がない。
- ・土地の細分化により、良好な居住環境が阻害されている。
- ・新小岩公園や葛飾あらかわ水辺公園など、自然を十分に感じられる公園が身近にある。一方で、駅周辺の通りや民有地等は緑が少なく、潤いや安らぎのある環境が不足。
- ・ごみやたばこのポイ捨て等により、まちの清潔感や美化が損なわれている。

■防災

- ・集中豪雨等により荒川が氾濫した場合、浸水の恐れがある。
- ・木造住宅が密集している地域において、火災や倒壊の危険性がある。

■地域のにぎわい等

- ・各自治町会活動が活発。また、新小岩周辺では芸術・ダンス・国際交流等様々な団体・サークルが活動。
- ・新小岩公園で開催されている「かつしかフードフェスタ」、駅前で行われている祭りやマルシェなど、年間を通してさまざまなイベントが実施されている。
- ・区内の外国人の約3割が新小岩地域に居住し、他の地域と比較しても最も多い地域となっている。

課題

まちの現状を踏まえ、以下のとおり課題を整理しました。

課題1 駅周辺の安全性や回遊性を高める道路・交通環境の形成が求められています。

多くの人でにぎわう新小岩駅周辺においては、歩行者・自転車・自動車それぞれが、快適に移動できる環境を形成することが求められており、今後も安全性に配慮した基盤整備を進めていくことが必要です。また、地域全体での回遊性を高めるため、新たな歩行者ルートや自転車利用環境の改善等も必要です。

課題2 区の南の玄関口として相応しい都市機能の集積と住環境との調和が求められています。

区の南の玄関口として相応しいまちを目指し、さまざまな都市機能の集積を図ることが求められます。また、地域の商店街や住宅地等との調和を図りながら、にぎわいに資する機能の誘導を進めることが必要です。さらに、人々がより快適に暮らせるよう、緑や景観等に配慮し、良好な住環境を維持・向上していくことが必要です。

課題3 災害に対応できる安全・安心なまちづくりが求められています。

震災や激甚化する水害等による災害被害に対応できるまちを目指し、避難場所となる高台やオープンスペースの確保が必要です。また、建物が密集している地域においては、不燃化や耐震化等を促進し、被害を最小限にとどめる事前防災を図ることが必要です。

課題4 地域の個性を生かした持続可能なまちづくりが求められています。

新小岩駅周辺の地域特性を生かした持続可能なまちづくりを進めていくため、既存の組織や団体等の活動を支援・強化し、まちづくり組織の構築及び運営を進めるとともに、地域の担い手となる人づくりや繋がりづくりを行い、多様な人々がまちに参加する機会を作ることが必要です。

4 まちの将来像と方針

将来像

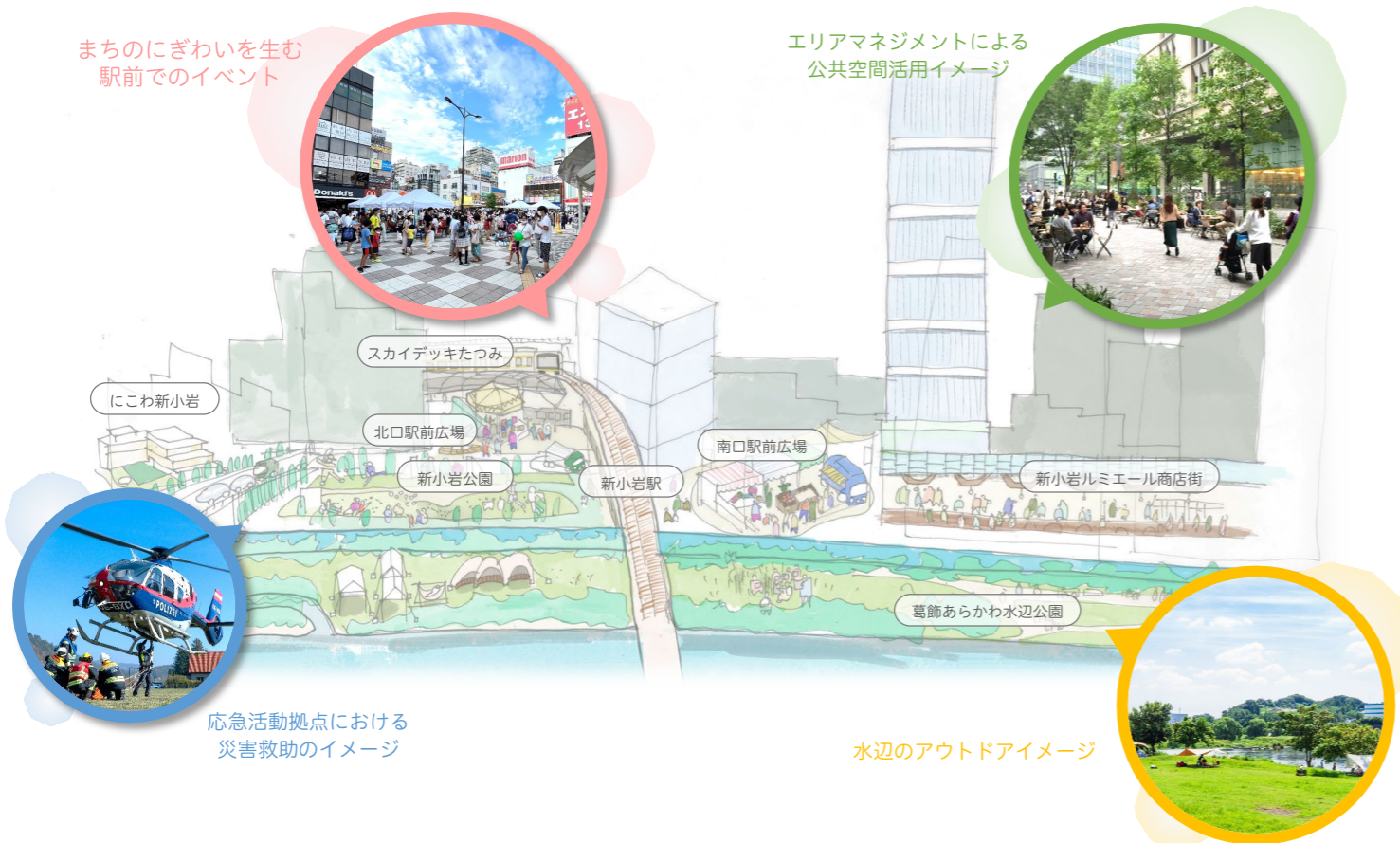
新小岩駅周辺のまちは、日々の暮らしを支えてくれるお店や、豊かな水と緑を感じさせてくれる公園、生活に彩りを与えてくれるイベント、そして、そこで生活する人々がいるとても魅力的なまちです。

このまちを、もっと良くしたい。もっと多くの人に知ってもらいたい。そんな思いから、

「まちに広がる みんなのWA！ 新小岩」

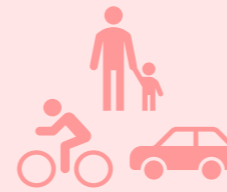
をコンセプトにまちづくりを進めていくことにしました。

この『WA！』には、常に私たちの心を「わあ！」と躍らせてくれる魅力あるまちとしての『WA！（喜び）』、新しいものと古いもの、まちと自然などが調和する『WA！（調和）』、まちの中で平和に＝安心安全に生活できる『WA！（安心安全）』、みんなで協力する輪を広げてまちをつくっていく『WA！（協力）』、など、さまざまな思いが込められています。



将来像を実現するための4つの方針

新小岩駅周辺のまちの将来像を実現するため、以下の4つの方針を定めます。



方針1 だれもが安全で快適に移動できるウォークアブルなまち

新小岩駅周辺は交通結節点としての機能強化を推進し、歩行者・自転車・自動車のそれぞれが安全で快適に移動できる交通環境を形成するため、駅前広場や道路の再整備等、歩行者ネットワークの充実など基盤整備の推進を図ります。



方針2 訪れて楽しい、住んで心地よいまち

広域的な都市機能集積拠点として、新小岩地域のまちに相応しい都市機能や都市環境を形成するため、商店街や住宅地等との調和を図りながら、地域に住む人が豊かに暮らし、訪れる人が楽しくなるための環境整備を行います。



方針3 防災力を高め、安心して暮らし続けることのできるまち

多様な災害に対応した応急活動拠点として新小岩公園の再整備を行うとともに、災害時に避難所となる公共施設等の防災機能の強化を図るなど、地域の防災力を高める環境整備を行います。



方針4 一人ひとりが生き生きと輝けるまち

持続可能なまちづくりに向けて、地域の人や日常の地域活動等といったさまざまなパートナーシップの経験や地域の資源を生かし、地域の魅力を向上・発信するための仕組みづくりを行います。また、コミュニティの形成や公共空間の活用促進など、人々がまちに関わっていくことができるような環境整備を進めます。

5 まちづくりの取組

方針1 だれもが安全で快適に移動できるウォーカブルなまち

取組1-1 駅前広場の再整備等

【南口駅前広場の再整備】

・南口駅前広場は、市街地再開発事業と一体的に交通結節機能の強化・拡充を図り、安心安全で緑豊かな歩行空間を形成するとともに、にぎわい創出のため、イベント等で活用できるスペースの整備を進めます。

【北口駅前広場等の検討】

・北口駅前広場は、人々が憩い・にぎわえる駅前の中心的な広場として、よりにぎわいを生みだせるよう、広場拡張の検討を進めます。

・北口地区内の車両と歩行者の安全性や利便性を確保するため、駅北口の西側に荷捌車や一般車が一時的に停車できる転回広場及び駐車場の検討を進めます。

■駅前広場の活用イメージ例



大森駅 駅前広場（東京都大田区）

喜び/安心安全
のWA!

子ども連れでも
安心して楽しめる
空間&イベント
を創出

取組1-2 道路の整備等

【蔵前橋通りへ接続する新規区画道路の整備の検討】

・北口地区内の歩行者の安全性確保を図るとともに、北口から西新小岩や東新小岩方面へのアクセス向上のため、北口地区内から蔵前橋通りに接続する新規区画道路の整備の検討を進めます。

【末広通りの安全性向上の検討】

・末広通りは、通勤・通学などにも利用する生活に密着したバス路線であることから、安全性や利便性の向上の検討を進めます。

【盆踊り通りの整備の検討】

・盆踊り通りは、円滑な交通環境が確保されるよう、道路整備の検討を進めます。

取組1-3 歩行者ネットワークの充実

【新小岩公園へのアクセスルートの検討】

・貨物線廃線敷きを活用し、新小岩駅と新小岩公園をつなぐ快適な歩行空間を検討します。

【まちなかにおける回遊性の向上】

・居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまちの実現に向けて、車いすやベビーカー利用者等を含む全ての歩行者やパーソナルモビリティに乗る人などが共存し、多様な人が快適に移動できるまちづくりの検討を進めます。

■線路跡地の活用イメージ例



下北線跡地（東京都世田谷区）

緑豊かな公園
を予感させて
くれる散歩道

喜びのWA!

取組1-4 公共交通網の充実

【バス交通の利便性向上】

・バス交通の利便性向上に向け、周辺道路の整備状況を踏まえながら、バス路線の再編等をバス事業者と検討します。

【新金線旅客化の推進】

・高齢社会の進展や脱炭素社会への潮流など、社会状況が変化していることを踏まえ、南北方向の鉄道網の充実や区の活性化を図るために、新金線の旅客化に向けた検討を進めます。

取組1-5 自転車利用環境の向上

【自転車駐車場の再編・整備】

・自転車を止めやすく利用しやすい駐輪環境づくりに向け、基盤整備やまちづくりと連携しながら、自転車駐車場の再編・整備を推進します。

【自転車通行空間の整備】

・歩行者と自転車の安全で快適な移動を確保するため、自転車レーン等の自転車通行空間の整備を推進します。

方針2 訪れて楽しい、住んで心地よいまち

取組 2-1 多様な都市機能の充実

【多様なニーズに対応する都市機能の充実】

・駅周辺においては、居住者や来街者等の様々なニーズに対応した持続可能なまちを目指すため、商店街のにぎわいと調和を図りながら、商業・業務機能の他、スポーツを含む文化・交流・公益施設などの多様な都市機能の誘導や多様な世代の居住に対応した質の高い住宅整備を進めます。

【公共施設の更新・有効活用の検討】

- ・駅周辺開発等に伴う人口増加への対応を図るため、既存の学校や子育て施設の更新や有効活用を検討します。
- ・(仮称)新小岩駅南口駅ビル6階フロアにて、行政サービス等の事業を展開します。

■多様な機能が集積するまちのイメージ



取組 2-2 駅前周辺街づくりの推進

【市街地再開発事業による多様な都市機能導入とにぎわい拠点形成の推進】

・南口駅前については、多様な都市機能の導入を図るため、実施中の再開発事業により、新小岩ルミエール商店街や駅前広場に面する低層部に、にぎわいの形成に資する商業・業務・サービス機能の導入を行います。高層部には質の高い居住機能を集約し、広域複合拠点に相応しい街づくりを推進します。

【街づくり手法を活用した駅前周辺街づくりの推進】

- ・駅北口や、駅南口の西側エリアについては、地権者の方と地域の将来像を一緒に考えながら、拠点形成に資する街となるよう、街づくり手法等の検討を進めます。
- ・駅東北のエリアについては、サッカースタジアムの構想の具体化に合わせて必要となる環境整備など街づくりと一体的に検討を進めます。
- ・駅前周辺の利便性の高い住宅地については、地区計画等を活用し良好な居住環境を確保しつつ、商業・業務機能等と調和した街づくりを推進します。

取組 2-3 公園等のオープンスペースの充実

【地域の核となる公園の再整備】

・新小岩公園、葛飾あらかわ水辺公園、西井堀せせらぎパーク等の地域の核となる公園については、老朽化が見られるとともに、時代のニーズも変化していることから、公園のあり方について再検討を行い、地区内外の人にとってにぎやかで魅力的な公園となるよう再整備を進めます。

【地域にあるオープンスペースの活用検討】

・地域にあるオープンスペースについては、地域の資源ととらえ、周辺のニーズ等を踏まえながら、活用を検討します。

【スポーツ振興と多様な世代の交流の場の形成】

・私学事業団総合運動場の敷地については、多様な世代の区民が、日ごろからスポーツに親しむことができる都市計画公園として整備するとともに、将来的なサッカースタジアム整備などについて検討します。

■公園の活動イメージ例



取組 2-4 快適で魅力的な住環境と景観の形成

【魅力ある住環境づくり】

- ・暮らし方の変化や ICT^{*}等の新しい技術に対応した住まいづくりを誘導し、「住み続けたい」と思えるまちづくり、「住んでみたい」と思われる住環境の形成を推進します。
- ・地域と行政が連携し、街の美化促進を図ります。

※ICT (Information and Communication Technology) : 情報通信技術のこと。

【人々が快適に感じられる景観・街並みの形成】

・駅前周辺については、土地の高度利用を図りながら、新たなシンボルやランドマークの形成とともに、人々が快適に感じられる景観・街並みの形成を図ります。

【無電柱化による地域の安全性向上と良好な街並みの形成】

・安全で快適な歩行空間の確保や道路の防災性の向上と、沿道における良好な街並み形成を図るため、無電柱化を推進します。

■快適な通りのイメージ例



金町 (東京都葛飾区)

方針 3 防災力を高め、安心して暮らし続けることのできるまち

取組 3-1 大規模な公園を活用した防災拠点の形成

【新小岩公園の再整備】

- 従来の避難場所としての位置づけに加え、高台化により浸水等の災害時に対応する応急活動拠点として防災機能を強化します。

【緩傾斜型堤防整備事業との連携促進】

- 堤防ののり面を緩やかな勾配として、治水機能を高める緩傾斜型堤防整備事業（東京都）と連携を図り、堤防と一体となった高台を設けます。

■緩傾斜型堤防と一体的な高台ゾーンの整備イメージ



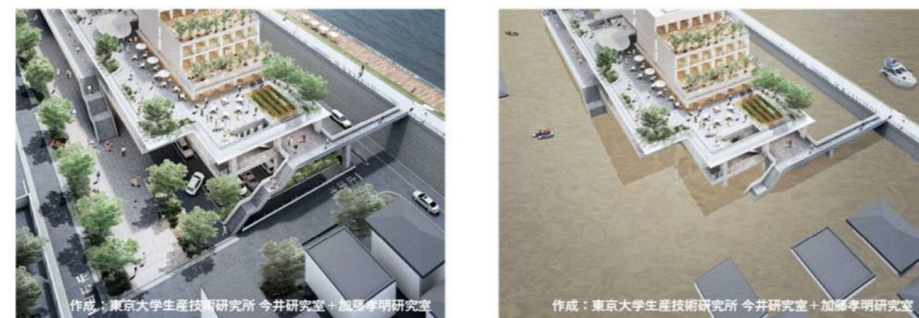
資料：「新小岩公園再整備基本計画」（令和3年7月）（葛飾区）より

取組 3-2 公共施設等の防災機能強化

【災害に強い公共施設の機能強化】

- 災害時の避難所となる公共施設において、施設の更新等を行う際には、浸水対応型拠点建築物化や避難空間の整備を進めるとともに、災害時の防災情報の発信、避難活動等の拠点として、震災にも水害にも強い公共施設の機能強化を図ります。
- 旧学校施設の有効活用として、地域防災性の向上のため、防災活動拠点機能を検討します。

■浸水対応型拠点建築物のイメージ



平常時のイメージ

浸水時のイメージ

資料：「浸水対応型市街地構想」（令和元年6月）（葛飾区）より

【再開発事業における地域の防災機能強化の推進】

- 市街地再開発事業において、帰宅困難者の一時滞在スペースや、オープンスペース等の整備を促進し、地域の防災機能強化を推進します。

取組 3-3 災害危険性の高い地域における防災性の向上

- 木造住宅が密集し、災害の危険性が高い場所については、住宅等の建て替えに合わせた細街路や行き止まり道路などの解消、建物の不燃化等による防災性の向上と住環境の改善を図ります。

■四つ木1丁目10番付近の細街路の整備前と整備後



安心して生活できる場や通り道となる

安心安全のWA!

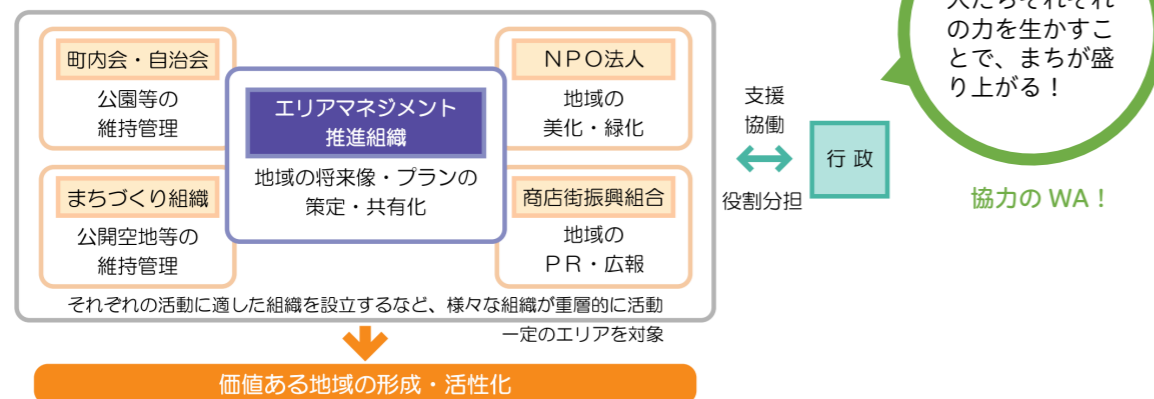
資料：葛飾区ホームページより

方針4 一人ひとりが生き生きと輝けるまち

取組 4-1 地域主体のまちの運営(エリアマネジメント)体制の構築

- ・将来に亘り、継続的に地域の課題解決やにぎわい創出等を図っていくため、地域の関係団体・関係者が主体となったエリアマネジメント組織の形成や連携促進を図るためのプラットフォーム構築を進めます。

■エリアマネジメントのイメージ



資料：「エリアマネジメントのすすめ」(平成22年2月)(国土交通省)より

■エリアマネジメントの組織の一例：札幌駅前通まちづくり株式会社



資料(組織図)：「先進的なエリアマネジメントの取組等の整理」(国土交通省)より
資料(写真)：「まちづくりの可能性を広げるプラットフォーム」(国土交通省)より

- ・エリアマネジメント組織の形成に向けては、各種事業・体制・資金調達手法等の持続可能な仕組みづくりについて、既存のまちづくり組織をはじめとした関係団体等とともに検討を進めます。

取組 4-2 人や繋がりづくりによる地域のまちづくり活動促進

【自治町会活動の継承】

- ・組織や活動の効率化、自治町会会館等活動拠点の整備、オンラインの活用等によるコミュニケーションの促進など、多様な世代が無理なく気軽に参加できる仕組みづくり等について助言・支援を行うことで、自治町会活動の継承を目指します。
- ・多様な世代が無理なく気軽に参加できる仕組みをつくることで、新規居住者の自治町会への加入促進を図ります。

【地域住民等が主体となった公共空間の活用促進】

- ・駅周辺の各広場や道路、公園などの公共空間を、地域住民等の主体的なまちづくり活動で活用するとともに、その一部を管理運営で担うことも視野に入れた仕組みづくりを進めます。

【地域の担い手・活動団体の育成】

- ・エリアマネジメントの取組等の中で、次世代のまちづくりを支える地域の担い手、活動団体の育成を図ります。
- ・既存の自治町会や商店会等の組織と新たにまちづくりの担い手となる方との繋がり支援します。

■担い手育成のイメージ



一般社団法人まちなね浜甲子園 (兵庫県西宮市)
資料：「令和元年度参画と協働のまちづくり取組状況報告書」(西宮市)より

まちへの愛着や繋がるきっかけをつくるため、住民参加型のイベントを開催

協力のWA!

取組 4-3 まちの魅力をもつ情報発信の促進

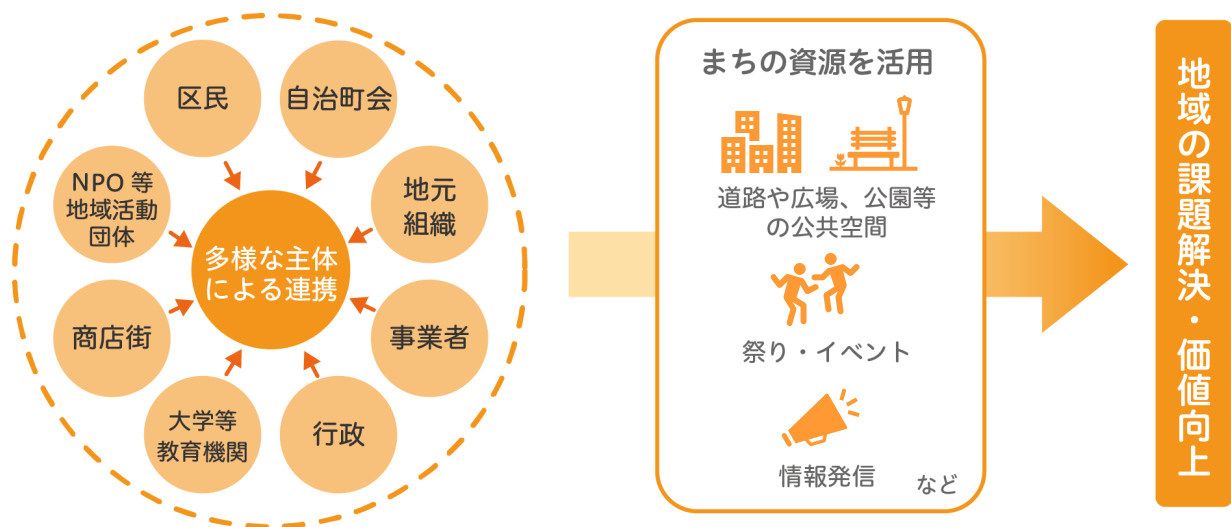
- ・新小岩の地域ブランドの発掘や交流のネットワーク拡大に向けて、地域の魅力やイベント等の情報発信を行う施設・ツール(ホームページ、SNS)を効果的に活用していくとともに、情報発信体制の構築を図ります。

6 将来像の実現に向けて

取組における推進体制等

本プランの将来像の実現に向けては、SDGs（持続可能な開発目標）の理念を踏まえながら、区民、事業者、行政等の多様な主体が連携してまちづくりに取り組む必要があります。

それぞれの役割や特徴を生かしながら、エリアマネジメントの取組により、地域の課題解決や価値を向上することで、持続可能なまちづくりを推進します。



エリアマネジメントの取組による持続可能なまちづくりの推進イメージ

■SDGs と本プランとの関係について

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、2001年に策定されたMDGs（Millennium Development Goals：ミレニアム開発目標）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とした国際目標です。区においても、SDGsに積極的に取り組んでいます。

本プランでは、SDGsの17のゴールのうち、ゴール11【持続可能な都市】のほか、ゴール7【エネルギー】、ゴール8【経済成長と雇用】、ゴール9【インフラ、産業化、イノベーション】、ゴール13【気候変動】、ゴール17【実施手段】の6つのゴールの実現を目指します。



▶プランに関するお問い合わせ

葛飾区都市整備部 新小岩街づくり担当課

住所 〒124-8555 東京都葛飾区立石 5-13-1 / TEL 03-5654-8536